

●教室(診療科)の特色●

形成外科は近年になり急速に発達した学問で、現在も発展し続けています。

新しいアイデアと発想でまったく新しい術式が生み出され、それがスタンダードな術式に成り代わる可能性を秘めています。また患者さんによって症例が1例1例異なるので、その人にあった一番よい方法を熟考しなければなりません。現在は患者さんが医師の技量と人柄を見て、受診をする時代です。

その期待に応えるため、医師は常に自分の技術を磨き、患者さんに合った最良の方法を考え、さらに優れた新しい治療方法を考える想像力を養うことが必要とされています。

このような自由な発想は、いろいろなジャンルの本を読んだり、いろいろな職種の人と話をすることによって培われ、アイデアも浮かびます。また、国際学会で研究成果を発表することも多いので、広い世界を意識してほしいと思います。



上田 晃一(うへだ こういち)教授(科長)

■専門分野

頭蓋顎顔面外科、マイクロサージャリー、唇顎口蓋裂、ケロイド・肥厚性瘢痕

■職歴

昭和34年 12月生まれ

昭和59年 大阪医科大学卒業後、大阪医科大学形成外科学教室(田嶋定夫教授)に入局、臨床研修開始

昭和61年 高知県近森病院で外科と救急医療研修(2年間)

平成 元年 埼玉医科大学総合医療センター形成外科、マイクロサージャリーの研修(2年半)

平成11年 英国Oxford大学Department of Human anatomy & Geneticsに 留学(1年間)

平成12年 大阪医科大学助教授(形成外科学教室)

平成16年 大阪医科大学教授(現 大阪医科薬科大学)

■主な学会/専門医資格

日本形成外科学会(形成外科専門医、皮膚腫瘍外科指導専門医)、小児形成外科分野指導医、日本頭蓋顎顔面外科学会(専門医)、日本手外科学会専門医、日本マイクロサージャリー学会、日本美容外科学会、日本抗加齢医学会、日本創傷外科学会、国際顎顔面外科学会(Associate Member)、日本形成外科手術手技学会理事長、日本口蓋裂学会理事、国際マイクロサージャリー学会(Active Member)

■研究課題

抗接着分子抗体を用いた皮弁の再灌流障害の防止および同種皮弁移植の拒絶反応の抑制
ケロイド・肥厚性瘢痕のエネルギー代謝、遊離筋弁移植による顔面表情筋の機能再建
唇裂外鼻変形の治療

●教室(診療科)の概要・特徴●

形成外科は、皮膚をはじめとする軟部組織や骨組織を含めた顔面全域など広い範囲を対象とする診療科です。

大阪医科薬科大学では、顔面外傷、顔面骨折、頭蓋顎顔面の先天異常や変形に対する三次元実体模型、三次元画像を用いたシミュレーション手術、唇顎口蓋裂に対する総合的治療、外傷や悪性腫瘍切除による組織欠損やマイクロサージャリーによる治療、Qスイッチアレクサンドライトレーザー、Vビームレーザーを用いた各種あざの治療を積極的に行っています。

●教室(診療科)指導医・上級医●

氏名(職掌)	専門医	参加学会
塗 隆志(准教授)	小児形成外科分野指導医、再建マイクロサージャリー分野指導医ほか	日本形成外科学会、日本マイクロサージャリー学会ほか
大槻祐喜(講師)	形成外科専門医、日本創傷外科学会専門医、再建マイクロサージャリー指導医	日本形成外科学会、日本乳房オンコプラスチック学会ほか
廣田友香(講師(准))	形成外科専門医、小児形成外科分野指導医	日本形成外科学会、日本口蓋裂学会ほか
光野乃佑(講師(准))	形成外科専門医、小児形成外科分野指導医、日本創傷外科学会専門医	日本形成外科学会、日本創傷外科学会
浅香明紀(助教)	形成外科専門医	日本形成外科学会、日本マイクロサージャリー学会ほか
木野紘実(助教)	形成外科専門医	日本形成外科学会、日本口蓋裂学会ほか
梅田千鶴(助教)	形成外科専門医	日本形成外科学会

■連絡先：大阪医科薬科大学形成外科学教室 TEL:072-683-1221

■ホームページ：<https://www.ompu.ac.jp/u-deps/pla/>

初期研修プログラムの特徴

形成外科は、年間入院手術 500例、外科手術 1,200例と豊富な症例数を有しています。先天異常、顔面外傷、再建を含めて形成外科学全般に関して幅広い専門研修を受けることが可能です。

形成外科の初期研修は、形成外科学全般の知識と臨床能力および技術を修得することを目的とし、形成外科領域のいかなる分野の診療、手術技術においても習熟した形成外科専門医の育成を目的としています。

当科の特徴

1. 唇裂口蓋裂

出生前診断にて唇裂と診断された胎児の母へのカウンセリングから成長に応じた手術まで長期にわたり患者との関係を重視した治療を行っています。唇裂特殊外来では言語療法士外来も併設しており、言語機能発達に合わせた治療を行っています。

2. 乳房再建

近年乳がん切除後の乳房再建術は需要が高まっており、大阪医科薬科大学および連携施設においても乳腺外科と密な連携を取りながら遊離穿通枝皮弁や動脈皮弁、人工インプラントを用いた再建術を行っています。また近年では、再建の質を高めるために3Dカメラを用いた術前シミュレーションを行っています。

3. リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合

顕微鏡を用いて径0.5mmほどのリンパ管と静脈の吻合を行うリンパ管静脈吻合術は、スーパーマイクロサージェリー技術を用いて行われます。乳癌や婦人科疾患の手術後や外傷などで発症する上肢や下肢のリンパ浮腫に対して手術が行われ、院内だけでなく他院からの紹介も多く、良好な成果を上げています。大阪医科薬科大学では理学療法を目的としたリンパ浮腫看護外来も併設しており、保存的治療から外科治療まで幅広く行っています。

4. 小耳症外来

小耳症に対して、肋軟骨を用いた耳介形成術を行っています。また、耳鼻科と共同で聴力の改善が見込まれる症例に対しては同時に鼓室形成術もおこない、整容面と機能面を考慮した治療を行っています。

5. 頭頸部再建やフットケアなどのチーム医療

複数の診療科と合同で治療を行うチーム医療において、当科は再建外科としての重要な役割を担ってきました。頭頸部領域では30年以上前から、耳鼻科、脳外科、食道外科と協力して悪性腫瘍の治療を行っています。また、他科や地域医療と連携が必要なフットケアにも力を入れています。

6. 難治性潰瘍における創内持続陰圧洗浄療法

2004年より局所陰圧閉鎖療法に持続的な洗浄機能を付加した創内持続陰圧洗浄療法を開発し、豊富な経験と数多くの論文を発表しています。主に難治性潰瘍（縦隔洞炎、褥瘡、下腿潰瘍など）に対して本法を施行しており、その治癒率は飛躍的に向上しています。



6年目専攻医：顕微鏡を使用した血管吻合の練習風景

さらに開放骨折の初期治療や脳外科領域の感染などに対しても臨床応用しています。

7. レーザー治療

小児を中心にあざや血管腫に対してレーザー治療を行っております。広範囲のものに対しては全身麻酔下に行っています。

8. 頭蓋縫合早期癒合症

頭蓋縫合早期癒合症に対して、脳神経外科と合同で頭蓋形成術を行っており、県外からも患者様が来院されています。

また、専門研修プログラムでは地域医療の研修が可能です。具体的な到達目標を以下に示します

研修内容と到達目標

<1年目>

- ・形成外科入院患者を、主治医の指導のもと診療する。
- ・形成外科疾患全般の病態を把握し、的確な診断、治療計画、症例のプレゼンテーション、手術計画を行う。
- ・各疾患に対する画像診断を含めた術前準備、術後管理方法を修得する。
- ・形成外科疾患における処置を修得する。
- ・形成外科領域における臨床論文を作成する。

<2年目>

- ・形成外科疾患の各分野についての病態、診断、治療についての知識を深め、手術手技を身につける。
- ・各症例の問題点を的確に指摘し、適切な手術計画、術後管理方法について提示できる。
- ・全層、分層の皮膚採取、自家骨採取、筋膜採取を行う。
- ・1年目の指導を行い、各疾患への理解を深めるとともに、自身の1年目で修得した診断、治療の技術の習熟につとめる。

週間スケジュール

月曜日	病棟回診、外来診察 合同手術（頭頸部再建、乳房再建）、病棟にて患者診察
火曜日	形成外科メインの手術日 術前術後カンファレンス
水曜日	手術、合同手術（乳房再建） 病棟にて患者診察
木曜日	形成外科メインの手術日 レーザー治療 術前術後カンファレンス
金曜日	外来診察 病棟にて患者診察
土曜日	手術または外来診察 病棟にて患者診察

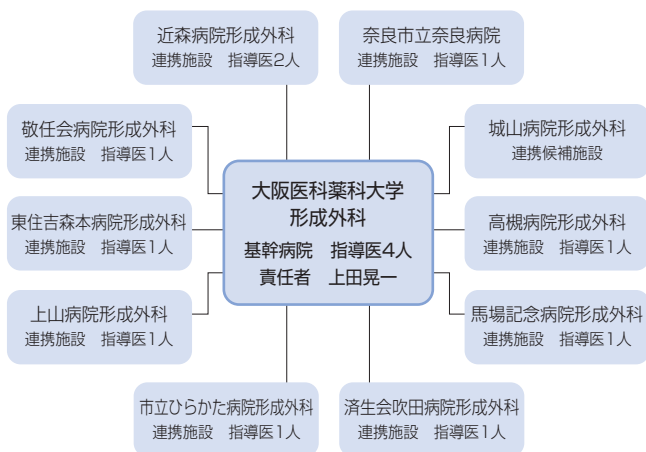
後期研修プログラムの特徴

日常の臨床から得られる、様々な問題点から発展した臨床研究を積極的に企画し、実践する能力を身につけることができる研修システムを構築しています。具体的には、①学会報告や症例報告、②臨床研究から論文作成、③当科と連携を深めている形成外科疾患研究における基礎リサーチへの参加、などがレジデント研修期間に可能です。

研修プログラム

大阪医科薬科大学形成外科の後期研修プログラムは、大阪医科薬科大学形成外科を基幹施設として市立奈良病院、近森病院形成外科、東住吉森本病院、高槻病院、馬場記念病院、彩樹守口敬任会病院形成外科、済生会吹田病院形成外科、市立ひらかた病院形成外科を連携施設、さらに城山病院形成外科、上山病院を連携候補施設として形成されている。以上の施設には形成外科専門医が在籍しているため、形成外科専門医の指導の下で修練を行なうことができ、形成外科専門医の修練として重要な期間を送れるように指導体制も整えている。

ただし、関連病院での修練開始時期、修練期間については、個々の状況に応じて調節する。



研修風景

研修内容と到達目標

- ・3年目までに修得した知識と技術を元に、手術を計画、施行を行う。技術、知識の修得度に応じて症例に対する手術を行う。
- ・主治医とともにまたは主治医として、手術計画、術後管理を立案し、実施する。
- ・マイクロサージャリーによる神経縫合
- ・皮弁術のドナー閉鎖
- ・良性腫瘍の切除、植皮等による再建術の執刀(指導医のもと)
- ・入院中のみならず退院後の外来診療を合わせて行う。
- ・大学のみならず連携施設での研修を行う。
- ・経験した症例について学会発表を行い、論文作成を行う。
- ・学会、研究会で発表を行い、論文作成を行う。

評価方法

「形成外科専門医受験資格」の基準症例を用いて、形成外科疾患の受け持ちが万遍なく行われているかどうかを基準に行う。また、術前術後カンファレンスでの発表内容からも合わせて検討する。なお、形成外科専門医の取得には、形成外科の臨床に基づく論文発表が義務づけられているので、できるだけ多くの症例を経験して、学会発表、論文発表に努める必要がある。

取得できる認定医・専門医

日本形成外科学会専門医、日本頭蓋顎顔面外科学会専門医
日本レーザー学会専門医、日本創傷外科学会専門医
日本形成外科学会小児形成外科分野指導医
日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医
日本形成外科学会再建・マイクロサージャリー分野指導医
日本形成外科学会レーザー分野指導医

参加学会等

日本形成外科学会／日本頭蓋顎顔面外科学会／日本創傷外科学会／日本マイクロサージャリー学会／日本乳房オンコプラスチック学会／日本口蓋裂学会／日本シミュレーション外科学会／日本熱傷学会／国際マイクロサージャリー学会／国際頭蓋顎顔面外科学／CLEFT／会創傷外科学会／日韓形成外科学会／日本手外科学会／日本リンパ学会／日本リンパ治療学会／その他多数



国際学会 in Paris

大学院における研究活動

教室独自の研究

- ユリスロポエチンレセプターアンタゴニストによるケロイド治療
- ケロイド・肥厚性瘢痕のエネルギー代謝
- 静脈皮弁のdelayに関する研究
- 顔面骨骨折の固定における力学的解析
- 三次元モデルを用いた頭蓋顔面骨切り術のシミュレーション手術
- 三次元画像を用いた乳房形態評価方法に関する研究
- 三次元解析ソフトを用いた各種計測
- リンパ浮腫の解析
- 眼瞼下垂におけるMuller筋の変性に対する研究
- 一眼レフ3Dカメラの臨床応用
- AR技術を活用した手術時情報共有システムの開発

本学での共同研究

- 薬理学教室
W9ペプチドと幹細胞を用いた新しい骨再生治療の開発
- 生理学教室
ノックアウトマウスを用いた発毛の研究および腫瘍免疫の研究
- 解剖学教育
ケロイド増殖におけるオートファジー効果の研究

他大学との共同研究

- 東京医科歯科大学歯学部分子発生学教室
頭蓋縫合早期癒合症の発生メカニズムおよび治療
頭蓋縫合早期癒合におけるゴアテックス人工硬膜を用いた再癒合阻害の試み

先輩レジデントのコメント

宮前 俊司 2020年度レジデント

迷っているあなたに伝えたいこと

形成外科入局3年目の宮前俊司です。私は入局後の2年間は関連病院で勤務し、3年目の今年、大学病院で勤務しています。

進路を迷っているあなたに、この医局の良いところを3点、お伝えしたいと思います。

①症例の幅広さ、②指導の丁寧さ、③関連施設の充実、の3点です。

①大阪医科薬科大学病院形成外科で扱う分野は、皮膚皮下腫瘍、外傷、熱傷、先天異常、他科合同の再建手術など多岐に渡ります。非常にたくさんの種類の手術に携わることができ、とても刺激的な日々を送ることができると思います。

②形成外科の領域は頭の前から足の先まで全ての部位が手術の対象となり得ます。これは全身の解剖をしっかりと理解していないと手術ができないということになります。学生時代、解剖学の勉強を少し疎かにしていた私は術中どこかの深さの操作をしているのかわからず戸惑うことも少なくありませんでした。しかし、上級医がしっかりと押さえるべきポイントを指導してくださることで、教科書にある解剖と手術手技とか繋がり、理解が深まっていったことを覚えていています。

③大学の医局に属していても、毎年大学病院で勤務するわけではありません。関連施設での研修を行うことができます。各関連施設では各々の特色があり、各病院で多く経験できる手術があります。その年はその技術を重点的に磨き、一つ一つできることを増やし、それが自分の自信となり、充実した日々を過ごすことができます。

この医局はとても勉強しやすく環境も良いところだと思います。少しでも興味がある方はぜひ一度見学に来てください！一緒に楽しんで仕事をしましょう！

吉田 英莉子 2019年度レジデント

恵まれた指導体制

大阪医科大学で研修医として過ごす中で形成外科と出会いました。先天性疾患、頭頸部再建、乳房再建等の特徴を持った班構成となっており、数ヶ月毎にローテーションさせて頂きました。パラエティーに富んだ症例が集まる大阪医科大学での研修は驚きの連続で、形成外科の扱う幅広さに魅了され入局を決意しました。

入局するにあたり、形成外科という学問の専門性の高さに憧れを持ちつつも果たして手術が出来るようになるのか、また、手術の幅広さは魅力であると同時にどこからどの様に知識を付けていくべきかと漠然とした大きな不安がありました。

手術にのぞむ時、自分のイメージしている手順は正しいのか、想像した景色が広がるのか必ず不安になります。そんな時、大学病院、関連病院関係なく医局の先生は、レジデントの抱える疑問や不安に対してヒントを下さり、新しいことにチャレンジすることを後押しして下さいます。まだまだ未熟な自分は手が止まってしまう場面もありますが、その度に根気強くサポートして下さいる先生方の指導を受け、少しずつ手術中に見える景色が変わってきた様に思います。

入局4年目の1年間は乳房再建班で過ごし、病気で失われた形を再建することが患者さんの勇気や前に進む力となり得ることを実感しました。病気で外傷で変わってしまった形を作る数少ない科であることに今でも日々魅力を感じています。

形成外科は患者さん毎に少しずつ型が変わる手術が多いからこそ迷う場面もありますが、その際に知識を分け、一緒に考えて下さる先輩方がいる大阪医科薬科大学病院形成外科の医局は本当に恵まれていると感じます。形成外科という領域に少しでも興味がある方はぜひ一度見学に来て頂ければと思います。

久野 勇年 2022年度レジデント

手を使って仕事がしたいあなたはぜひ！

私は元々図工が好きで、手技のある仕事がしたいと思っていました。そのため形成外科には学生時代から興味がありました。形成外科という領域に関して具体的なイメージを持っている方は少ないと思います。私も最初は手を使って細かな作業ができる分野というイメージくらいでした。しかし入局してみて、数多くの手術に携わるにつれ奥深さが少しずつ分かってきました。対象とする疾患は癌から先天奇形まで幅広く、それに伴って患者さんも新生児からお年寄りまで満遍なく関わります。最初の頃は手術で何をやっているのか分からず長時間の手術になるとしんどさを感じることもありましたが、しかし知識が入ってくると、進捗状況やその手術の要所が見えてきて術者の先生と同じ気持ちで手術に入れるようになります。そうなるとうどん長い手術でも時間を忘れて集中でき体のだるさも忘れてきます。またその度に新しい発見があり、モチベーションも上がります。

当科の先生方は面倒見の良い方が多く、気兼ねなく質問できますし、積極的に教えてくださいます。医局も手術室もとても新しく綺麗なので気持ちよく仕事ができます。

手を使って仕事がしたいと思っている方はぜひ一度大阪医科薬科大学に見学に来てみてください。